

2 目 標 達 成 計 画

ふれあいの家

作成日 平成 22 年 3 月 29 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束(玄関の施錠)	全職員が身体拘束の弊害を深く理解し可能な限り身体拘束のない日常をつくりだす。	毎月のモニタリング時や日々の気づき記録で身体拘束に関して常に取り上げ、惰性に甘んじない体制をつくる。	常に
2	10	家族の意見を聞く	意見箱を設置し、アンケートを実施して様々な角度から家族の意見を汲み上げる努力をする。	意見箱を置く。家族アンケートを行う。	3か月
3	26	職員の日常の気づきを介護計画に組み込める仕組みを模索する。	全職員が主体的に取り組める介護計画を作成し、入居者の個別の満足を実現する。	フリーペーパー(気づき、提案、ヒヤリハット)を活用して職員の意見、気づきを介護計画に反映させる。	まず3か月実施してみる。
4	43	排泄の自立を自覚した介護の工夫を行う。	認知度や身体機能の低下に応じた排泄の自立を実現する。	一日の流れ表を活用して、必要な方の排泄の時間をチェックして、声かけ 誘導を徹底する。	3か月
5	40	食事の楽しみ	食事作りの楽しみ、献立決定への参加、好みの食事を食べる楽しみ等を配慮できる体制づくり。	食事作りに職員全員が関わること。入居者にとっての食事の楽しみの大きさを認識することをモニタリングやミーティングで取り上げる。	まず3か月実施してみる。
6	49	日常的な外出支援	入居者各人のニーズを把握して、外出等支援を行う。特に言葉で、希望を表明出来ない方のニーズ把握を努力する。	フリーペーパーを活用して、細かな観察を共有して各人の支援に生かす。外出支援を保証できる職員体制をつくる。	常時
7	33	終末期への取り組み	不安なく、前向きに職員全員でその方の終末期に向き合える。	モニタリング、ミーティングで確実にその方の状態を全員で把握し、今必要な支援を確認していく。家族との密な話し合いを続ける。急変時の対応の学習会を行い職員の不安を軽減する。	3か月・常時

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

